

2025
**患者
コミュニティ
憲章**
レポート

YayaさんとXuanxuanさん夫妻(中国)
RSウイルスから乳児を守る活動を展開

sanofi

— 私たちの約束

患者コミュニティ との協働

本文書は、サノフィが患者コミュニティとともに医薬品のライフサイクルの全体を通じて世界各地で意義あるパートナーシップを進めることを目標に掲げ2023年に定めた『Sanofi Patient Community Promise（サノフィ患者コミュニティ憲章）』の2回目の進捗レポートです。

2025年は私たちの統合的な患者エンゲージメントモデルがさらに進化し、より充実した結果を生み出しました。患者支援団体からは、安全性プログラムや持続可能性に向けた取り組みからデジタルヘルスソリューションに至る様々な領域で専門知識を提供いただきました。Sanofi Partnership Quality Survey (サノフィのパートナーシップ調査) からは、今回も価値ある指針が得られ、私たちが常に現状を把握し機敏に対応することが必要であることが改めて示されました。私たちの焦点を絞った活動より明確な結果が得られ、**サノフィとの「協働のしやすさ」を肯定いただいた回答者の割合は、2024年の61%から91%に上昇しました。**私たちは、活動のありかたを変えるべく懸命に努力してきました。今、その成果を誇らしく感じています。

私たちの主な成果は、次の通りです。

- 患者経験データの創出に関してローカルでのパートナーシップが増加しました。
- 低中所得国における患者団体の能力構築ワークショップへの出席が増加しました。

- 臨床試験において患者報告アウトカム(PRO)の測定指標の開発で連携を進めました。
- 投資対象としての健康について話し合う枠組みを共同で開発しました。

課題はまだ残されています。新たな社内プロセスが導入されることで、私たちが必要と考える方法での活動が妨げられる可能性があります。また地政学的な変化が生じることで、持続可能な医療アクセスが損なわれる可能性もあります。

これらの課題に取り組むため、私たちは引き続き関係構築への投資を継続します。患者コミュニティとのパートナーシップを重視し、開かれた対話を重ね、この取り組みを最優先とする社内基盤を固めてまいります。

私たちのパートナーである患者さん、ケアバー、患者支援団体や組織の皆さんの貢献は、計り知れません。皆さんが誠実な取り組みを望まれ、私たちの進歩を評価し責任を問う姿勢で参加してくださることが、この活動を可能にしています。心より感謝申し上げます。

Kersten Sharrock

グローバル・ペイシエント・エンゲージメント
ヘッド

目次

サノフィ患者コミュニティ憲章 製品ライフサイクル全体を通じて	3
セクション1 研究と臨床開発	4
セクション2 製品上市計画	7
セクション3 規制と市場アクセス活動	10
セクション4 上市后とリアルワールドでのインパクト	14
用語集	16

サノフィ患者コミュニティ憲章は 製品のライフサイクル全体に及びます

私たちは患者さんの優先事項を
反映する医薬品を開発します



1 ● 研究と臨床開発

2 ● 製品の上市計画



私たちは、患者コミュニティとの
連携を包括的なアプローチで進め
ます

私たちは、人を中心とする医療
制度の実現を支援します



3 ● 規制と市場アクセス
に関する活動



4 ● 上市後とリアルワールド
のインパクト



私たちはリアルワールドの患者コ
ミュニティからいただくご意見をもと
に、医薬品を改良し、コミュニティ
に適した形に変えていきます

患者コミュニティ憲章の
詳細は [こちら](#)

私たちは患者さんの優先事項を反映する医薬品を開発します

連携は、私たちの研究の中心にあります。私たちは、患者コミュニティとの開かれた対話を促進・維持し、コミュニティのニーズと優先課題を明らかにし、コミュニティからのフィードバックを新薬開発に組み込みます。

患者インサイトを組み込むことで、私たちは患者さん、ケアギバーとコミュニティにとって最も重要なアウトカム(評価項目)をより深い形で研究することが可能となります。例えば、患者さんからの通院が必要な臨床試験の参加が困難であるとの声に応じて、私たちはリモートからのデジタルアクセスを可能にするしくみを構築しました。私たちの臨床試験の92%は、デジタルおよび分散型臨床試験(DCT)の要素を1つ以上備えています。この割合は2024年から14%上昇しました。

私たちのインクルージョンに向けた活動は、2025年にさらに加速しました。私たちは、米国とブラジルにおいてダイバーシティの目標の84%を達成し、米国の試験のうちダイバーシティに関する全ての目標を達成した試験が占める割合は、2024年に比べ250%上昇しました。また、南アフリカとカナダにおいて、ダイバーシティの目標を設定し、成功の評価基準の範囲を拡大しました。

また、2025年には、Patient Safety and Pharmacovigilance (患者安全性・ファーマコビジランス (医薬品安全性監視))チームと協働で Patient Safety Experience Panels (患者安全性経験パネル)と名づけた新たなプログラムを立ち上げました。このプログラムを通じて、私たちは様々な治療領域について40名以上の安全性コンサルタントと連携し、患者さんの治療リスクの捉え方や、また安全性に関するコミュニケーションの改善方法について理解を深めました。



98%

第I〜III相試験で評価中の適応症候補のうち、患者さんから情報提供を受けて策定した構造的ベネフィット・リスク評価(sBRA)を行う候補が占める割合

「サノフィは私たちのコミュニティと連携し、研究参加への姿勢、臨床試験のツールや関連資料へのアクセス性やアンメットニーズなどの様々な課題にとり組んできました。サノフィはまた、私たちのコミュニティの中でも特に見過ごされがちで、十分なサービスを受けられていない患者集団のニーズや優先課題を把握し、対策を講じる姿勢を明らかにしてきました」

— 神経系疾患の患者団体 (米国)



診察中の患者と医療提供者
©Zoe Savitz

— 私たちの約束

患者さんの臨床試験への参画を示す数値



100%

サノフィの臨床試験のうち、患者さんから情報提供を受けた試験が占める割合

「患者さんの優先課題は、サノフィのあらゆる開発マイルストーンにおける羅針盤となります。私たちは、全ての研究開発活動に患者経験データ(PED)を系統的に組み込んでいます。こうすることで、私たちは、患者さんや患者コミュニティが本当の意味で必要としていることや、最も重要な事柄に取り組める医薬品の開発を進めることができます」

— Vicky DiBiaso

Patient Driven Medicines Development
(患者主導医薬品開発部門) ヘッド

28

2025年に簡略化した
プロトコルの数

臨床試験を十分な情報提供を行った上で実施する方法の一つが、患者さんと共に進める試験計画書のレビューです。

2025年には28件の試験について簡略化したプロトコルをレビューし、右に示すポイントについて最適化を行いました。



28

評価項目の変更



22

手順の変更



22

選択/除外基準の変更



20

必要な来院回数の変更



20

試験薬の投与方法の変更



18

試験期間の変更

STORY

鎌状赤血球症の治療に**変革をもたらす**

私たちはどうすれば鎌状赤血球症の治療を改善できるのでしょうか？

2025年、私たちはこの疾患の影響を大きく受けている人々に、この問いを投げかけました。私たちは鎌状赤血球症の患者団体と協働し、患者コミュニティにアンメットニーズについて尋ねました。患者さんらは、疾患による痛みと疲労の影響が大きく、より効果の高い治療法を必要としていること、投与が簡便な治療薬を待ち望んでいることが明らかになりました。

また、多くの患者さんらが、生産的な社会生活に戻る能力を上げたいと願っていることもわかりました。

私たちはこうした知見を研究に組み入れ、**疼痛発作の発生状況を記録できる eDiary**や**患者報告に基づく評価項目**などの新たな評価項目を策定し、生産性や日常活動の変化に関するデータを収集しました。



Aniseさんと母親(米国)
後天性血小板減少性紫斑病 (aTTP)
© Chris Kirzeder Photography

STORY

結腸直腸がんの患者さんの**声を伝える**

患者パネルインタビューを通じ、転移性結腸直腸がんの患者さんらに自らの体験を共有いただき、苦勞したこと、必要なことや、より忍容性の高い治療に向けた期待などを語っていただきました。患者さんらの声から、一本の道筋ができようとしています。ピボタル試験に用いる患者用資料を共同で作成するところから、新たなPROスケールを臨床試験に組み込むところまでの活動で、**最も重要な項目である忍容性の評価**を行う活動を進めています。

こうした活動は、私たちだけで行っているわけではありません。私たちは、患者団体と協働で、患者登録の幅を広げ、2つの新規治療薬候補の背景にある機序について患者さんらの認識を高め、試験参加者の候補となる患者さんらが正しい情報に正しいタイミングでアクセスできるよう促す活動を展開しています。

詳細はこちら
[私たちの臨床試験について](#)



「研究プロジェクトにおける連携から、生産的で大きな成果が得られています。サノフィのチームとのコミュニケーションは明確で効率が低いものであったことは、特筆に値します。サノフィは、イノベーションと新たなソリューションの開発について、明確な姿勢を示しています」

- 免疫系疾患の患者団体 (スペイン)

「疾病と共に生きる人々についての理解を深め、アンメットニーズを探ろうとする姿勢、また学んだことを自社の開発プログラムに取り入れようとする姿勢は、業界でもトップクラスだと思います」

- 希少疾患の患者団体 (米国)

私たちは、患者コミュニティとの連携を包括的なアプローチで進めます

私たちは、全ての事業領域で患者コミュニティと連携しています。私たちの取り組みには、全世界での医療アクセスの不平等への取り組みや、科学的な対話などがあります。

私たちのサイエンスへの取り組み

2025年には、私たちは**患者支援団体 (patient advocacy groups, PAGs)** との科学的な対話に注力し、共通する政治的関心に対する連携を高め、患者さんと社内研究者との相互交流の向上を進めました。また、私たちは、患者団体と連携して患者の安全性とファーマコビジランス(PSPV)に関する取り組みを強化し、PSPVデータの価値と、PSPVデータ作成を支援する方法についての啓発活動を進めました。



24

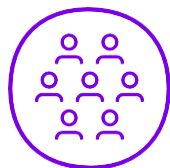
患者さんの安全性とファーマコ
ビジランスに特化した
プログラムの数
(2024年との比較で+380%)



Vanessa Mahamatさん
チャドでの薬局研修に参加

ケアを阻む障壁を乗り越える

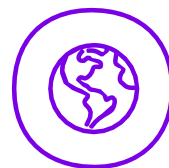
私たちの活動の一つに、**アクセスギャップへの取り組み**があります。現地の人道支援団体を通じて治療薬やワクチンを届ける継続的な活動を通じて、医薬品への公平なアクセスの継続的な確保を進めています。



私たちは意義あるマイル
ストーンを達成しました

100万人

2025年に支援した非感染性疾
患の患者さんの数



私たちは

40

カ国の中低所得
国で活動してい
ます

サノフィの活動
に関する詳細は
こちら



「サノフィは、率直に言えば、私の
お気に入りのパートナーです。サノ
フィの人々は一緒に働きやすく、患
者や支援団体を大事にしてくれ、患
者支援団体のパートナーとの議論に
シニアリーダーが出席します。サノ
フィのこうした姿勢は、他の製薬企
業の多くを上回っていると私は思い
ます」

- 免疫領域の患者団体 (米国)

PAGパートナーからインサイトや今後の方向性が得られる
パートナーシップ調査では、私たちの活動が前向きな結果をもたらしていることが示されました。全体満足度は、2025年に大幅に上昇しました。

しかしながら、さらなる進歩が必要です。希少疾患領域のある世界的患者団体は「**患者団体との連絡などの点で改善の余地が多くあります。分かりやすい内容で、相互連携に適した内容でなければなりません**」と述べています。

90%

サノフィの患者支援の
取り組みに対する
全般的満足度

85%

サノフィの科学的な対話に
対する取り組みが「良い」
または「大変良い」と答えた
回答者の割合
(2024年は74%)

+7%

患者さん経験に関するサノ
フィの理解が「良い」
または「大変良い」と答えた
回答者が増加
(2024年との比較)

「私たちは、コミュニティや政策議論などの場で患者さんやケアギバーとできる限り顔を合わせるよう努めています。また、私たちの臨床試験のアドバイザーとして参加いただいたり、複雑な医療制度のなかでペイシエント・ジャーニーを経験している方々からお話をうかがっています。彼らは私たちの活動の向上を促してくれる存在であり、私たちは彼らとともに物事を作り上げることを誇らしく感じています」

— Amy Akers Teets

患者戦略グローバルヘッド
スペシャルティケア

Géraldineさん(フランス)
COPDのエキスパート
患者当事者兼メンター



STORY

患者主導のデータ創出の支援： MPS レジストリとの連携

2025年には、全米MPS協会と連携し、**ムコ多糖症に関する患者主導型レジストリ**の立ち上げを支援しました。この革新的な連携は、**2026年2月に開始を公表**した取り組みで、データガバナンスを患者さんにご家族の手に直接委ね、自らが所有し管理するプラットフォームに自身の健康情報を投稿いただく形式です。

サノフィは立ち上げ時のスポンサーとして、持続可能なインフラの整備を支援し、患者コミュニティが自ら定めた方式でリアルワールドデータ(RWD)を創出できるシステム作りを支えています。

この取り組みにより、**データ収集の優先順位がMPSと共に生きる人々にとって重要な事柄を反映**するものとなり、研究者や規制当局に病勢進行や治療転帰に関する価値ある知見を提供することにつながります。

STORY

中国では、共創を通じて血友病の患者さんの声を届けました

ペイシェント・ジャーニーの地図は臨床上のマイルストーンに集中しがちですが、患者さんの実際の経験は単純なものではありません。希少疾患と共に生きる人々は、社会との関わりや、感情面、また制度上の課題に直面することが多く、ケアのあらゆる面で様々な課題を経験しています。

私たちは、サノフィのグローバル患者カウンスルである「Co-Lab」と共に、包括的なペイシェント・ジャーニーの枠組みを作りました。メンバー組織の一つであるCORD (中国希少疾患協会) は、中国の血友病コミュニティと共にこの活動を進めました。

患者さんらに対して医療への道筋と治療経験を共有するよう呼びかけ、より詳細な情報が得られるソリューションの策定に向けた枠組みを作り、希少疾患コミュニティの中での対話の充実を図りました。

2025年9月、この前例のないプログラムは、第14回中国希少疾患サミットにおいて希少疾患の啓発への貢献が高く評価され、「ゴールデン・スネイル賞」を受賞しました。

第14回中国希少疾患サミット(2025年)



2つのパートナー団体の声

「サノフィは10年以上にわたり、私たち患者団体の不動のパートナーであり続けています。サノフィは私たちの貢献に敬意を払い、パートナーシップや患者の生きた経験を評価してくれます。私たちとの協力関係は、透明性が高く、オープンで、価値あるものです」

— ワクチン関連患者団体 (カナダ)

「私たちの組織は、サノフィとの連携の質にたいへん満足しています。特に素晴らしいのが、サノフィが提案してくれるプロジェクトが当組織にまさにふさわしい内容であること。情報交換の質もきわめて高いもので、年間を通じて定期的な情報提供があり、常に建設的で、信頼関係に根ざす内容です」

— 免疫領域の患者団体 (フランス)

— 私たちの約束

私たちは、人を中心とする医療制度の実現を支援します

あらゆる医療政策の背後には、医療を待ち望む人々がいます。経済が逼迫する状況では、医療制度側は医療費を最小限に留めるべきコストとみなしがちですが、私たちは健康を投資対象とみています。健康は、社会と経済のウェルビーイングに欠かせない要素であり、イノベーションを必要とする重要な領域です。

医療の場での意思決定における意義ある患者エンゲージメントとは、どのようなものなのでしょうか？

私たちは、**患者さんとの一貫したパートナーシップ**を優先しながら、リアルワールドの疾患データを取得し、患者経験データを私たちの承認申請資料や保険償還申請資料に含めています。これにより、患者さんにとって最も重要な事柄について、世界各地の医療制度に対応しつつ、多数のステークホルダーとの意義ある対話を進めることができます。

私たちは2026年にはこの取り組みをさらに進め、患者支援プロジェクトを共創することで医療政策に取り組み、患者経験や患者さんらがもつ専門知識が変化が必要な領域での改革につながるよう働きかけていきます。私たちはまた、ローカルレベルでの承認申請を支援し、患者さんのニーズや優先課題が申請文書に含められるよう活動しています。

100%

第III相試験で評価中の適応症候補のうち、患者視点の添付文書戦略を策定し、患者さんが十分な情報を得た上で治療の意思決定が行えるようにしている
適応症の割合

100%

2025年に患者経験データ(PED)をエビデンスとして添付した承認申請の割合

77%

成熟した医療技術評価(HTA: Health Technology Assessment)システムで私たちがモニタリングを行っている10カ国における保険償還申請書のうち、患者ベースのエビデンスとして添付した申請書の割合



左から：Míriam Gifre (企業・デジタルコミュニケーション部門) と Clàudia Fernández-Arévalo (企業広報担当の新卒社員) スペイン © Jordi Salas

「患者さんの声を政策議論、規制当局の判断や費用償還プロセスに組み込めば、医療制度はより迅速に対応し、より公平で、より持続可能なものになります」

— Laura Gutierrez
グローバル渉外・政策部門ヘッド

STORY

青少年を対象とするプログラム 1型糖尿病の啓発

青少年の1型糖尿病が増加するなか、私たちは疾患啓発と早期発見を促す活動を積極的に展開しています。

イタリアでは、私たちは小児の1型糖尿病に取り組むグループは20D1VEという研究グループを立ち上げました。患者支援団体、医療従事者と医療施設で構成するこの24年、**1型糖尿病のスクリーニングの最適化のための16項目の推奨事項**を下院議会に提出し、2025年に受理されました。

D1VEは今や、イタリアの全国スクリーニングプログラムの実施を推進する存在となっています。

英国では、患者さんや患者支援団体と協働して**世界初のT1Dポップグループ**を立ち上げ、若い患者さんらを招待し、経験の共有を促しました。このグループのオリジナル曲である**Rise Up**は、オンラインで**5900万インプレッション**を達成し、**ストリーム再生数は14,000回**を記録しました。その影響は英国議会に達し、下院では1型糖尿病の早期発見について話し合われました。

STORY

患者さんの声を中心として様々な疾患領域における連携が進んでいます

私たちのパートナーシップは、世界各地の医療システムにおいて様々な疾患をもつ患者さんの声をより広く届けるきっかけとなりました。**移植領域**では、私たちは世界規模の患者支援団体と協働して、コミュニティが独自の支援活動が行えるよう知識とツールの提供を進め、これが**EUの規制再検討に関する資料の作成**に貢献しました。私たちの共同作業は、QOL調査、ホライゾン・スキニング（将来の医療技術や政策動向を予測する活動）、論文発表や、国レベルのマニフェストの作成など多岐にわたります。

フランスでは、慢性移植片対宿主病(慢性GVHD)を希少疾患として認定し、資金投入と明確な治療プロトコルを作成するよう求める**“Acting Together for the Recognition of Chronic GVHD”** (慢性GVHDの認識向上に向けた共同活動)と題した新たな活動を支援しています。

この2025年の政治行動は2024年に行われたQOL調査や医療従事者への情報提供などの活動に基づくものです。

スペインでは、私たちは医療従事者、患者団体や政策立案者と連携し、**COPDに関する包括報告書**を作成しました。この報告書では、COPDの診断、治療アクセスとインテグレートド・ケアを阻む15項目の課題を特定しています。この取り組みは、SEPARが後援し、FENAER、EPOC EspañaとAPEPOCの支援を受けて行われ、政策対話に貢献するとともに、患者さんの声を広く届けました。



Xavierさん(米国)
映像作家/自己免疫性1型糖尿病

共通の課題への取り組み

2025年には、私たちは9つの患者協議会を主催しました。私たちの患者協議会は、患者コミュニティと着実な連携関係を築き、解決が難しい課題を特定し、協働して解決策を生み出し、医療における患者さんの声をより強いものにしています。



2025年イタリア患者協議会のメンバー



スペイン患者協議会のメンバー（2025年11月）

マドリードで開催された第4回サノフィ・イベリア患者協議会では、2022～2024年のプログラムの進捗状況を振り返り、患者エンゲージメントを強化する方法について話し合われました。会議は、償還制度の専門家を交えた公的な患者支援や患者参加に関するセッションなどが行われ、患者さんの声のさらなる反映について話し合われました。

マドリードでのサノフィ・イベリア患者協議会の第4回会合の詳細はこちらをクリック



イタリアの2025年患者協議会では、医療におけるAI活用に関するウェビナーに25の患者支援団体が参加し、AI活用に関する共同開発コミュニケーションプロジェクトが必要との意見で一致しました。この取り組みにより、バランスの取れたAI導入の必要性や、患者さん、規制当局とデジタルトランスレーション部門との部門横断的な連携の重要性が浮き彫りにされました。

能力構築プログラムへの投資

患者さんの声は、サノフィから独立した位置にあり、患者さんら自身のアンメットニーズや課題について政策や規制の面で意見を主張できるものであることが重要です。この目標に向けて、サノフィは能力構築プログラムに投資しています。

トルコ:

ROUTEプログラム

トルコでは、私たちのROUTEプログラムが、患者さんがより良い政策の実現に向けて意見を主張できるよう支援しています。

この能力構築アカデミーは、5つの疾患領域を対象とする8つの患者団体と連携し、ROUTEの主な柱であるエンパワーメントとパートナーシップと卓越性に焦点を定めています。

患者支援団体は、参加者同士のサポートを通じて成長し、実践型研修を通じて組織ガバナンスの強化方法を学びます。2025年には、サノフィは評価や実践型演習を含む双方向型のオンラインセッションを実施し、グローバルなHTAの見解とトルコの医療状況を踏まえ、情報に基づく政策立案、患者支援や医療アクセスに関する話し合いを進めました。

「能力構築プログラムは、ユニークで充実した体験で、この取り組みを進めるサノフィは称賛に値します。患者支援における世界的な成功事例が学べる価値ある機会であり、私たちの能力強化を目標とした体系的な実践型研修を受けることができました」

— 移植に関する患者団体 (インド)

タイおよびトルコ： 患者支援

2025年には、サノフィは United Patients と The Catalyst と引き続き連携し、バンコクとインスタンブールにおいて、希少疾患、糖尿病、がん、免疫疾患と多発性硬化症の領域を対象に11カ国から52人の患者支援団体のリーダーを招いてプログラムを実施しました。参加者は、双方向型のセッションや協働作業を通じて、患者支援のスキルを強化し、医療のステークホルダーや意思決定者と意義ある対話を進める技術を磨きました。



Danielle さん(米国) 多発性骨髄腫
© 1998 Hewlett-Packard Company

中欧・南欧:

AI Unlocked

2025年にはサノフィのチームはAI Unlockedと名づけた包括的な教育プログラムを始動しました。これは患者団体が実践的なAIスキルを構築し、患者コミュニティがAI活用のメリットを直接得られるようにするための活動です。プログラムでは、調査で明らかにされた以下の重大なアンメットニーズに取り組みました。

- 情報アクセスの地域差
- 医療コミュニケーションで言語や理解度に関するギャップ
- 健康に関する誤った情報の拡散

－ 私たちの約束

私たちはリアルワールドの患者コミュニティからいただくご意見をもとに、医薬品を改良し、コミュニティに適した形に変えていきます

医薬品のライフサイクルは上市で終わるものではなく、毎日、一人一人の患者さんとともに歩むものです。私たちにとって、今ある医薬品の改善は、新たな医薬品の開発と同様に重要です。私たちのチームは、統合的エビデンス創出計画を用い、製品の使用状況や長期的有益性に関するデータを収集しています。

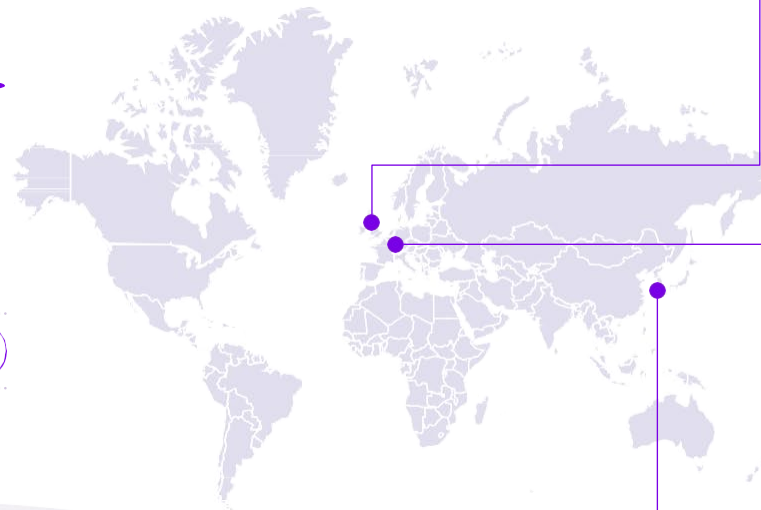
2025年、患者さんらのご意見が
私たちの啓発活動に重要な役割を
果たしました

グローバル

ファブリー病

Fabry International Network
(ファブリー国際ネットワ
ーク)と協働でファブリー
病の啓発ウェビナーシリー
ズを制作しました。

詳しくは
こちら



英国および北欧

1型糖尿病(T1D)

患者さんからのフィードバックは、私たちの1型糖尿病に対する取り組みの方向性を定める指針となっています。北欧では、T1Dコミュニティとの取り組みが2件の研究につながり、早期検査に向けた姿勢に関する試験と家族の反応に関する試験が行われました。英国では、63人の患者さんを対象とした包括的な調査から治療を開始する際の課題が明らかになり、この結果に基づき患者支援ツールを作成しました。

ベルギー

移植片対宿主病(GVHD)

ベルギーでは、GVHDを経験した人々との積極的な連携を通じてエビデンス創出の活動が続けられるなか、早期検出に関する認識不足が明らかになりました。私たちは、患者さんや医師と連携し、初期症状の気づきを促す小冊子を作成しました。

韓国

希少血液疾患

韓国における希少血液疾患の患者さんとの連携から、無症候性出血や、関節の健康状態に無症候性出血が及ぼす長期的な影響に関する認識不足が明らかになりました。この結果を受けて、早期リスクの理解と、進行性関節障害の予防を促す啓発活動を開始しました。

医療機器

包括的なモニタリングプログラムでフィードバックを素早く収集し反映しています。また、私たちの医薬品とワクチンの環境フットプリントを最小限に留めつつ、現在進行中の気候変動への対策を講じることを目的として、エコデザインを通じて製品の持続可能性を高める取り組みを進めています。



エコデザイン

100%

2025年に発売した医薬品
とワクチンのうちエコデ
ザインを採用した製品の
割合

STORY

多発性硬化症の患者さんらとEM Festivalを開催、 人工知能(AI)の影響を議論する機会を持ちました

AIは多発性硬化症(MS)の患者ケアを改善できる?

2025年10月、患者さん、神経科医、研究者や技術者がマドリードで開催したEM Festival (EMは多発性硬化症のスペイン語の頭文字)に参加し、その答えを探りました。サノフィ、FEM Madrid (マドリード多発性硬化症対策基金)およびFundación Ramón Areces (ラモン・アレセス財団)の共催によるこのイベントでは、**MSの研究と治療にAIがもたらす変化**について話し合われました。病勢進行の予測におけるAIの役割、メンタルヘルスにおけるAI、デジタルコミュニティの力や、MSの女性患者が直面する課題が主な議題でした。

EM Festivalは、一般参加型のイベントとして、科学、データと共感を融合させる独自の手法で進められました。参加者へのインタビューはスペイン国内のニュース番組や医療系メディアで報じられ、患者さんの声と臨床現場での専門知識が広く伝えられました。EM Festivalではライブイベントに加えてSNSチャネルでの活動を進め、対話を継続し、コミュニティを支援しています。

STORY

アトピー性皮膚炎(AD)の患者経験を をより深く理解する

アトピー性皮膚炎の患者さんにとって最も重要なことは?

この問いに対する答えを得るため、私たちはGlobal Allergy & Airways Patient Platform (GAAPP、世界アレルギー・気道疾患患者プラットフォーム)の協力を得てアンケート調査を実施し、**米国、ドイツ、フランス、湾岸諸国と日本に住む1,100人以上の患者さんから回答を得ました。**アンケートにはアンメットニーズ、アトピー性皮膚炎が慢性疾患であることの理解、患者さんの心配事の変遷や、リソースや啓発の改善に関する質問が含められました。

sanofi

調査から、アンメットニーズは依然として高いことが明らかにされました。新たな治療法の安全性、機序と投与期間について理解を深めたいとの回答が寄せられました。また、新たな治療法がコントロールが難しい症状が最小限に抑えられる可能性についても、大きな関心が寄せられました。

100%

スペシャルティケア部門
の製品の統合的エビデンス
創出計画のうち
**患者インサイトが直接または
間接的に反映されている
計画の割合**

100%

ジェネラルメディシン
ビジネスユニット
の自己免疫性1型糖尿病
と移植治療用医薬品
の統合的エビデンス
創出計画のうち、
**患者インサイトが直接
反映されている計画
の割合**



Jadeさん(フランス)
世界的探検家/アトピー性皮膚炎

用語集

定義

プロトコルの簡略化 (abbreviated protocol)— 試験計画書(プロトコル)は作成の過程で何度もレビューが行われます。簡略化はこの作業の一環として行われます。

能力構築プログラム (capacity building program)— サノフィ社外の専門家が指導する系統的な研修プログラムで、座学や実践的演習、参加者同士のサポートや事例研究のレビューを通じて、患者支援団体(PAGs)が必要な能力を構築し、効果的なガバナンス体制についての学術的な理解を深めていただくことを目的としています。

臨床試験の評価項目 (clinical trial endpoint)— 臨床試験の評価項目は、研究者が試験開始前に定義する特異的で測定可能なアウトカムで、試験の中核をなす「治療は効いたのか?」という疑問の答えを得るために定める指標です。

デジタルおよび分散型臨床試験 (DCT: digital and decentralized clinical trial)— DCTとは、デジタル技術を活用して分散して行う臨床試験です。DCTでは、遠隔医療、自宅治療、e-Consent (デジタル技術を活用した同意取得)やウェアラブルデバイスを活用して、患者さんのアクセスを容易にし、試験に参加しやすい環境を整えます。

統合的エビデンス創出計画 (integrated evidence generation plan)— 製品のライフサイクルを通じてデータを創出するための計画で、サノフィの社内ロードマップとして策定しています。

患者経験データ (PED: patient experience data)— 患者さんは、自身の病状について毎日様々な経験をしておられます。患者さんらは、治療により日々の体調が上下し、病状が日常生活にもたらす影響を日々経験しておられます。患者経験データは、こうした経験の全てを捕捉するエビデンスのことです。医療研究では、こうしたエビデンスを用いて、病状管理法の改善や最適なケアの提供方法を設計します。詳細については [こちら](#) をご覧ください。

患者視点の添付文書戦略 (patient relevant drug label strategy)— 私たちは、患者さんにとって重要なデータが盛り込まれた添付文書の策定を目指しています。

リアルワールドデータ (RWD: real world data)— リアルワールドデータとは、様々な情報源から日常的に収集される患者さんの健康状態および/または医療の実施状況に関する情報のことです。RWDには、電子カルテのデータ、保険請求データ、製品または疾患に関する登録研究のデータ、その他の情報源

から収集したデータ(デジタルヘルス技術)のうち、健康状態に関する情報が得られるデータが含まれます。詳細については、[こちら](#) をご覧ください。

科学的な対話 (scientific exchange)— 科学的な対話とは、臨床研究または医療従事者と患者支援団体(PAG)のリーダーが、サノフィと患者コミュニティの双方にとって関心がある科学的テーマについて話し合う活動を指します。これには、製品に関する最近の発表内容、パイプライン開発や臨床試験の進捗状況に関するレビューが含まれます。

構造的ベネフィット・リスク評価 (sBRA: structured benefit-risk assessment)— sBRAとは、薬剤の肯定的な治療効果と、現れる可能性のある副作用、安全性や、患者の選好に関するその他の要素に照らして体系的に評価することを意味します。

用語集 略語

AI — Artificial Intelligence (人工知能)

APEPOC — Spanish Association of Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease
(スペイン慢性閉塞性肺疾患患者協会)

COPD — Chronic obstructive pulmonary disease (慢性閉塞性肺疾患)

CORD — Chinese Organization for Rare Disorders (中国希少疾患協会)

CRC — Colorectal cancer (結腸直腸がん)

CT — Clinical trials (臨床試験)

ECTRIMS — European Committee for Treatment and Research in Multiple Sclerosis (欧州多発性硬化症学会)

EPOC España — Enfermedad Pulmonar Obstructiva Crónica (スペインCOPD患者支援団体)

EU — European Union (欧州連合)

FENAER — Federación Nacional de Asociaciones de Enfermedades Respiratorias
(スペインアレルギー・気道疾患患者協会連合)

GVHD — Graft-versus-host disease (移植片対宿主病)

HTA — Health Technology Assessment (医療技術評価)

MPS — Mucopolysaccharidoses (ムコ多糖症)

MS — Multiple sclerosis (多発性硬化症)

PAGs — Patient advocacy groups (患者支援団体)

Ph1-3 — Phase 1 to phase 3 of clinical trials (第I～III相臨床試験)

PROs — Patient reported outcomes (患者報告アウトカム)

PSPV — Patient Safety and Pharmacovigilance (患者安全性・ファーマコビジランス)

R&D — Research & Development (研究開発)

SCD — Sick cell disease (鎌状赤血球症)

SEPAR — Spanish Society of Pulmonology and Thoracic Surgery
(スペイン呼吸器胸部外科学会)

T1D — Type 1 diabetes (1型糖尿病)

TA — Therapeutic area (治療領域)

サノフィ・フランス
「がんと仕事に関するグローバル展開チーム」
©Emeric Fohlen/Bambasi Prod



sanofi

46, avenue de La Grande Armée
75017 Paris, France

www.sanofi.com



Miwakoさんと娘さん (日本)
免疫疾患
© Hewlett-Packard Company